

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4077900159		
法人名	医療法人 福田病院		
事業所名	グループホームとまと		
所在地	福岡県三潴郡大木町大字大角1133-3 (電話) 0944-75-2345		
自己評価作成日	平成 22 年 10 月 7 日	評価結果確定日	平成 22 年 12 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

個別での対応を基本とし外出やコミュニケーション方法、日々の支援を行っている。季節を感じていただけるよう花々の見学、希望の場所への外出や外食の機会を多く持ち社会との繋がりを継続できるよう支援している。
清掃活動や小学生下校時の見守り隊に参加し地域の一員として活動している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 22 年 11 月 4 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、県道から少し入った静かな田園の中に、特別養護老人ホームに隣接しており、近隣の民家との調和がよく穏やかな雰囲気醸し出している。利用者の共用空間は明るく清潔で、季節の花が飾られ、ゆったりとした気分させられる。ソファ・テーブル・椅子等が程よく置かれ、利用者の楽しい語らいの場になっている。職員は、利用者と協働して作品を作り上げる等、利用者のもてる力を発揮できる場を作り、利用者一人ひとりのペースを大切に、自己決定を尊重している。地区の子供見守り隊に参加し、地域との交流を深め、できる限り利用者の意向や希望に副うケアの実践に努めており、更なるサービスの質の向上が期待できる事業所である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員の意見を取り入れ作り上げた理念は、全体会議の場で意義の再確認や見直しを行い共有している。又、毎朝のミーティング時に復唱することや理念に基づいたケアプランを作成し実践できている。	全職員でつくりあげた事業所独自の理念に、地域密着型サービスの視点が含まれている。ミーティング時等に理念の実践について話し合い、日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	見守り隊や清掃活動、地域の行事に利用者と一緒に参加している。今後は気軽に立ち寄って頂けるホームを目指し地域の方を招いての茶話会を計画している。	町内会に加入し、地域の祭りや清掃、子ども見守り隊等の地域行事や活動へ参加している。また、事業所で行う行事は、回覧板で地域住民に呼びかけ、地域との交流に努めている。近隣の幼稚園・小・中・高等学校と交流し、隣近所の人たちが立ち寄り、おすそ分けを頂く等、日常的に交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事参加を通して地域の方と交流する事で、認知症の行動に対し理解して頂ける様に努めている。又、現在計画中の茶話会を第一歩とし気軽に介護の相談が出来る関係作りを目指して行きたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方が立ち寄りやすいグループホームについて相談しアドバイスを頂いた。茶話会を計画中であり、頂いたアドバイスと共に今まで以上地域の一員となっていく。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。利用者やサービスの実際、今後の予定、外部評価への取り組み状況等を報告している。委員から地域活動に事業所を開放する等の意見をもらい、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	「110番の家」登録の際、まず市町村担当者へ尋ね手続き方法等のアドバイスを頂いた。夜間巡視の対応方法についても助言を頂く等必要時には相談を行っている。	行政担当者にサービスや運営等について日頃から報告・相談し、意見や助言をもらって連携を図っている。運営推進会議以外に事業所の実情や介護現場の現状について積極的に伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の外部研修に参加した職員が研修報告を行い、全職員が共に学ぶ場を設けている。対応に苦慮する場合は全職員で話し合い見解の統一を図っている。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、内部・外部研修を行っている。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書がある。居室及び玄関は施錠していない。職員は利用者の外出傾向を把握し、職員間で見守り、声かけをしている。地域住民にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加して学んだことを全体会議で発表することで他職員も学ぶ機会を持ち虐待防止に努めている。 事業所内での虐待が見過ごされることがないように利用者の怪我やアザ等があった場合は原因を探っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は同和問題に関する研修に参加している。全職員が成年後見制度の概要について説明できる。	年2回、職員は権利擁護に関する内部・外部研修を受け、理解している。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書がある。利用者・家族等へは、契約時に制度について説明している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	料金改定時には個別に説明し同意を得た。使用するパットの変更などにより負担金の増加が見込まれる場合は家族に説明、意向を確認し同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	幅広い意見が聞ける様運営推進会議には毎回違った利用者や家族に参加して頂いている。7月に利用者懇談会を開催し、今まで聞けなかった沢山の意見や要望を頂いた。全体会議で対応を検討しサービスの向上に努めた。今後定期的に開催予定である。	利用者及び家族等の意見は、日々のケアの中や家族来訪時、年2回開催する家族会等に聴取し、希望に副って、利用者懇談会・カラオケ・個別会食等を行っている。また、家族来訪時には介護記録等を開示し、利用料請求時にはアンケート用紙を配布する等、意見等を積極的に聴取し、運営に反映するよう取り組んでいる。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個人面談を行い意見を引き出す場を設けている。 職員ロッカールームに意見箱を設置しており匿名でも意見できる。	管理者は職員と個別面談を行い、代表者は年2回、職員と話し合う機会を設け、その他にもミーティング時等、職員の意見や要望を聴取するよう努めている。職員の希望を考慮した勤務体制を整え、外部評価の自己評価を全職員で取り組む等、意見を反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に個別面談を行い、業務内容に限らず職場に対する意見等を聞く事が出来ている。資格取得や研修参加に対しては、有休や勤務調整を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員が定着しており1年間職員の採用は行っていない。 幅広い年齢層の職員を雇っており、園芸、調理、室内装飾等各職員が得意な分野を生かして勤務している。	職員の採用にあたって、性別や年齢等を理由に、採用対象から排除しないようにしている。職員は、個々の能力を發揮しながら生き生きとして勤務し、昇進・教育・定年・退職について差別はなく、法人代表者及び管理者は、誰もが安心して働ける職場環境づくりに配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員は町で開催される人権及び啓発活動の研修に参加しており、研修内容については全スタッフで共有できる様報告の場を設けている。	管理者は、利用者に対する人権の尊重を重んじ、職員に対し、人権に関する内部・外部研修の機会を設けている。テキスト・パンフレット・研修記録・報告書がある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を共有すると共に職員の力量にあった研修への参加を呼びかけている。勤務しながら資格取得を志す職員に対しては勤務日程等配慮行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ連絡会や勉強会に参加し、同業者と事例検討する場がある。地域内のグループホームと行事を通じて交流する事で職員の学びの場となっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントでは発見できなかった希望や要望が見つかった場合もすぐに家族を含め検討し、解決を図り、安心することでスムーズな関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時や面接時に本人が居ない場で家族の意向を確認している。入所後しばらくは要望等に対する報告を随時行い、家族との関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	満床で入所申し込みしてもすぐに入所出来ない事が多い為、必要に応じ近隣のグループホームや介護保険施設の紹介を行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	月1回利用者主体の漬物作りを行ったり、生活歴に応じて野菜そろえや調理、野菜の収穫等職員と一緒に作業を行いアドバイスを頂く場面が日常的にある。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日々の様子を伝え認知症に対する理解を深めて頂いている。夏祭りやクリスマス会ではご家族にも参加して頂き一緒に過ごす事で共に本人を支える機会を持っている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の行事に参加。入居前より通われている食事処や美容室へ出掛け、馴染みの人と会話することで関係継続の支援に努めている。	管理者・職員は、利用者一人ひとりの馴染みの人や場所について把握し、電話や手紙のやり取り等を支援し、これまでの関係が途切れないよう努めている。また、家族等の協力も得て、利用者の友人が事業所を訪問することがある。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の些細なトラブル等をミーティングや申し送りノートにて共有し関係を把握することでテーブル席の配置を考慮したりレクリエーションに声をかけ参加を促し孤立しないよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入居で契約が終了しても時折御見舞いや面会を行っている。利用者も一緒に面会することもある。退居後入院され退院後の入所相談の支援を行った。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のコミュニケーションの中で思いや希望を聞きだしている。利用者一人ひとりに担当職員がいて密に接する事で普段言えない意向まで把握することが出来ている。	職員は、日々の関わりの中で利用者に声をかけ思いや意向を聴取し、また、利用者の言動や表情から本人の真意を推し測る等して、意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者は、家族等から情報を得たり、生活歴から本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や関係者から情報を頂きセンター方式に記載し把握出来ている。必要に応じ、入居前施設へ出向き経過を聞いている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり24時間の過ごし方が一目で分かる生活日誌があり、毎日のバイタルチェックや過ごし方、状態変化時等は記載し朝、夕の申し送りにて把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者には担当職員がおり月1回ケアマネ、担当者が中心となりモニタリングを行っている。面会時等近況報告を含め家族の意向を確認しプランに反映させている。	利用者、家族、職員の意見を反映した個別具体的な介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、6ヶ月に1回また状態の変化に応じて、現状に即した介護計画を見直している。介護計画を見直した際には、その都度、家族等へ説明し、署名をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	対応方法の変更等の場合には、職員が数日間試した事に対して記録を残し、それを基にカンファレンスを行っている。個別の生活日誌は1枚で4日分記入でき、変化時の状態を確認がしやすくなる様改善した。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と共に外出して頂く為にホームの車を使用し職員が同行している。兄弟の葬儀参列の際、親族が送迎出来なかった為職員が付き添い参列して頂いた。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	無断外出時の捜索の協力を所轄の交番やタクシー会社に依頼している。 地域の清掃活動には必ず参加しており地域の方と一緒に作業を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院以外でも受診を行っており、看護師が直接担当医へ連絡し指示を仰ぐ事の出来る関係である。	利用者一人ひとりの受診経過を把握し、希望する医療機関での受診や月1回、嘱託医の往診を支援している。家族等と受診時の通院介助の方法や情報の伝達について話し合い、合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と24時間連絡がとれる体制であり、夜間の急変時も指示を仰ぐことが出来る。介護職が気付いた変化についてはその都度看護師に報告している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院受診付き添いの際、病室に立ち寄り状態把握に努めている。 地域連携在宅支援委員会で情報交換ができ必要時相談できる関係である。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについての説明を行い同意を得ている。 入所後も主治医と相談しながら看護師より説明し意向を確認している。	重度化した場合や終末期のあり方について事業所の方針があり、契約時に利用者や家族等へ説明し、同意を得ている。利用者本人の状況変化に応じて、家族、職員、医療関係者等で話し合い、方針を共有し、支援するよう取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別の急変時の対応については、朝のミーティングや全体会議の場で指導を受けている。 緊急時の対応マニュアルがすぐに見れる場所にあり、入職時にはバイタル測定や心肺蘇生法の講習を受けている。		

項目番号		項目	自己評価		外部評価		
自己	外部		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導による避難訓練を年2回行っている。夜間の訓練時には近隣の方の参加を呼びかけ、顔と誘導方法が解るように情報を書いたプレートを表示している。緊急連絡網には地区代表の方も登録させて頂いている。		マニュアルを整備している。年2回、消防署及び地域住民の参加協力を得て、避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方を実施している。地域の協力体制については、運営推進会議で協力を呼びかけている。また、非常用食料・飲料水を準備している。		災害に備えて、トイレや寒さをしのげるような備品等も準備してほしい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】							
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の目線より下の位置で敬語で会話したり、失礼のない態度で接する事で対応している。必要に応じその方にあった声掛けの仕方をミーティングや全体会議の場で話し合っている。		職員は、利用者一人ひとりの思いに副って、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応に努めている。管理者は、ミーティングや全体会議で意識向上を図っている。個人情報については、事業所独自にマニュアルを作成し、職員の守秘義務の徹底を図っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出先を決める際、雑誌やパンフレットを見せ選んで頂いたり、自己決定しやすいよう選択出来るような質問で働きかけ本人の思いを表せるよう支援している。		/		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の際、本人が希望されれば時間をずらし提供したり、レクリエーションや入浴時の声掛けを行い本人の意思を聞き希望にそって支援している。				
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら化粧をしたり、髪染めの要望があればスタッフにて行っている。又訪問美容室に依頼し散髪を行うなどおしゃれの支援を行っている。				
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手なものがあれば味付けや食材を変え、一人ひとりの好みに合わせたり、飲酒を希望される利用者には提供し食事を楽しめるように支援している。食事の準備や後片付けは利用者と一緒にしている。				職員と利用者は、一緒に準備や片付けを行っている。職員は、利用者と同じ物を同じテーブルで会話をしながら、食事が楽しみなものになるよう配慮している。献立は利用者の嗜好を考慮して作成し、栄養士の指導を受けている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスが取れた食事になるよう栄養士がチェックしており、献立によってはキザミ食等必要に応じて提供している。食事量や水分量は一人ひとり確認し記録している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けが必要な利用者や夕食後に確認し必要に応じ介助を行う利用者など一人ひとりにあった口腔ケアを支援している。義歯洗浄剤を定期的に使用し清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック記録にて排泄パターンの把握を行い、一人ひとりにあったパットを検討し使用している。定期的な声掛け、誘導を行う等紙パンツやパットの使用料を減らし自立に向けた支援を行っている。	職員は、利用者一人ひとりのサインを把握している。排泄チェック表を作成し、おむつやパッドの種類を工夫し、排泄の自立を意識したケアに取り組んでいる。失禁の際は、本人の自尊心を傷つけないよう、さり気なく対応している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維を多く取り入れたり、牛乳や腹部マッサージにて自然排便を促している。看護師よりミーティングや全体会議の場で便秘の原因や予防等の指導があり勉強する機会がある。便秘時の対応の仕方も学んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日入浴可能であり、一人ひとりに合わせた入浴時間、温度調節や入浴剤を使用している。浴室の窓からは庭を眺めることが出来る木々を楽しめる環境にある。	利用者一人ひとりの状況等に応じて、毎日、入浴支援をしている。入浴拒否の利用者へは、声かけやタイミングを計る等工夫して、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明・室温や衣類の調節に気を配り自宅より使い慣れた寝具類を持参して頂き使用することで安眠を確保している。寝具類は定期的に洗濯し天日干しすることで清潔を保ち気持ちよく眠れるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の効能・効果や注意事項等が記された用紙を個人記録に綴っており、いつでも確認でき把握している。内服の変更や副作用等は看護師より説明、申し送りにて確実に伝達できている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前にダンスを趣味でされていた入居者には、スタッフ付き添いダンスホールに出かけ踊りを楽しめたり、保育園の先生をされていた利用者には、装飾等を手伝ったりアドバイスを頂いたり楽しみや役割のある支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	県外の温泉へ入浴の外出や市外の神社へ参拝に出かけたりと普段行けない場所への外出は事前に計画を立て支援している。馴染みのある美容室への外出は、ご家族に協力して頂き連れていってもらっている。	利用者の体調や天候に配慮し、散歩や買い物、外食、ドライブ等の支援を行っている。また、季節毎に花見や馴染みの神社参詣等、家族等と相談しながら外出の機会を持つように支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる入居者には、ご家族了承のもと、自分で所持されており、買い物や外食の際、本人で支払いをされお金を使えるよう支援している。金庫に預かっている利用者でも本人が希望された際は、必要に応じ渡して使えるようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族や友人と電話で話す機会を提供したり、手紙のやり取りを行う事ができるように支援している。又、文章を書くことが不得意な利用者でもスタッフが日頃の様子を書き利用者に一言二言書いて頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの温度・湿度を定期的にチェックし管理している。玄関や中庭には季節の花、ホールには季節に応じた装飾を行い季節を感じられるようにしている。日めくりカレンダーを置くことで日にちの混乱をなくす配慮している。	共用空間は開放的で、利用者がソファで会話したり、昼寝をする等、寛いでいる。また、利用者家族の作品の絵、書、ちぎり絵等を飾り、家庭的雰囲気配慮している。職員の声のトーンは大き過ぎず、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファ、中庭にはテーブルや椅子を置き日光浴もかねて利用者同士が自由に談話できるようにしている。又、一人がけのソファもあり独りになることができる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談の上、馴染みのある家具等を持参して頂いたり、好みに応じた装飾や家族の写真飾ることで居心地のよい居室作りを行っている。	居室には、利用者の使い慣れた筆筒や座椅子、テレビ等を持ち込み、家族写真を飾る等している。また、居室の入口に表札を掛け、利用者が安心して居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで段差がなく手すりやスロープが設置されている。居室前には名札や写真を飾ることで自分の部屋が分かりやすいよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働けている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員の意見を取り入れ作り上げた理念は、全体会議の場で意義の再確認や見直しを行い共有している。又、朝のミーティング時に復唱することや理念に基づいたケアプランを作成し実践できている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	見守り隊や清掃活動、地域の行事に利用者と一緒に参加している。今後は気軽に立ち寄って頂けるホームを目指し地域の方を招いての茶話会を計画している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事参加を通して地域の方と交流することで認知症の行動に対し理解して頂ける様努めている。又、現在計画中の茶話会を第一歩とし気軽に介護の相談が出来る関係作りを目指して行きたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方が立ち寄りやすいグループホームについて相談しアドバイスを頂いた。茶話会を計画中であり、頂いたアドバイスと共に今まで以上に地域の一員となっていきたい。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	「110番の家」登録の際、まず市町村担当者に尋ね手続き方法等のアドバイスを頂いた。夜間巡視の対応方法についても助言を頂く等必要時には相談を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の外部研修に参加した職員が研修報告を行い、全職員が共に学ぶ場を設けている。対応に苦慮する場合は全スタッフで話し合い見解の統一を図っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加して学んだことを全体会議で発表することで他職員も学ぶ機会を持ち虐待防止に努めている。 事業所内での虐待が見過ごされることが無いように利用者の怪我やアザ等があった場合は原因を探っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は同和問題に関する研修に参加している。全職員が成年後見制度の概要について説明できる。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	料金改定時には個別に説明し同意を得た。使用するパットの変更などにより負担金の増加が見込まれる場合は家族に説明、意向を確認し了承を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	幅広い意見が聞ける様運営推進会議には毎回違った利用者や家族に参加して頂いている。7月に利用者懇談会を開催し、今まで聞けなかった沢山の意見や要望を頂いた。全体会議で対応を検討しサービスの向上に努めた。今後定期的に開催予定である。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個人面談を行い意見を引き出す場を設けている。 職員ロッカールームに意見箱を設置しており匿名でも意見できる。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に個人面談を行い、業務内容に限らず、職場に対する意見等を聞く事が出来ている。資格取得や研修参加に対しては、有休や勤務調整を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員が定着しており1年間職員の採用は行っていない。 幅広い年齢層の職員を雇っており、園芸、調理、室内装飾等各職員が得意な分野を生かし勤務している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員は町で開催される人権及び啓発活動の研修に参加しており、研修内容については全スタッフで共有できる様報告の場を設けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を提供すると共に職員の力量にあった研修への参加を呼びかけている。勤務しながら資格取得を志す職員に対しては勤務日程等配慮を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネ連絡会や勉強会に参加し、同業者と事例検討する場がある。地域内のグループホームと行事を通じて交流する事で職員の学びの場となっている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントでは発見できなかった希望や要望が見つかった場合もすぐに家族を含め検討し、解決を図り、安心することでスムーズな関係作りに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時や面接時に本人が居ない場で家族の意向を確認している。入所後しばらくは要望に対しての報告を随時行い、家族との関係作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	満床で入所申し込みしてもすぐに入所出来ない事が多い為、必要に応じ近隣のグループホームや介護保健施設の紹介を随時行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	月1回利用者主体の漬物作りを行ったり、生活歴に応じて野菜そろえや調理、野菜の収穫等職員と一緒に作業を行いアドバイスを頂く場面が日常的にある。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日々の様子を伝え認知症に対する理解を深めて頂いている。職員との外出時にご家族に声を掛け一緒に出かけ共に本人を支えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人と電話で連絡取り合うことや地元の行事に参加、入居前より参拝されていた神社等馴染みの場所に行くことで関係継続の支援に努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の些細なトラブル等をミーティングや申し送りノートにて共有し関係を把握することでテーブル席の配置を考慮したりレクリエーションに声をかけ参加を促し孤立しないよう支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入居で契約が終了しても時折御見舞いや面会を行っている。利用者も一緒に面会することもある。退居後入院され退院後の入所相談の支援を行った。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のコミュニケーションの中で想いや希望を聞きだしている。利用者様一人一人に担当職員がいて密に接する事で普段言えない意向まで把握することが出来ている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や関係者から情報を頂きセンター方式に記載し把握出来ている。必要に応じ入居前施設へ出向き経過を聞いている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり24時間の過ごし方が一目で分かる生活日誌があり、毎日のバイタルチェックや過ごし方、状態変化時等は記載し朝・夕の申し送りにて把握している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者には担当職員がおり月1回ケアマネ、担当者が中心となりモニタリングを行っている。面会時等近況報告を含め家族の意向を確認しプランに反映させている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	対応方法の変更等の場合には、職員が数日間試した事に対して記録を残し、それを基にカンファレンスを行っている。個別の生活日誌は1枚で4日分記入でき、変化時の状態確認がしやすくなる様改善した。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族と共に外出して頂く為にホームの車を使用し職員が同行している。兄弟の葬儀参列の際、親族が送迎出来なかった為職員が付き添い参列して頂いた。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	無断外出の捜索の協力を所轄の交番やタクシー会社に依頼している。 地域の清掃活動には必ず参加しており地域の方と一緒に作業を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院以外でも受診を行っており、看護師が担当医へ連絡し指示を仰ぐ事の出来る関係である。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と24時間連絡がとれる体制であり、夜間急変時も指示を仰ぐ事が出来る。介護職が気付いた変化についてはその都度看護師に報告している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院受診付き添いの際、病室に立ち寄り状態把握に努めている。 地域連携在宅支援委員会で情報交換ができ必要時相談出来る関係である。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについての説明を行い同意を得ている。 入所後も主治医と相談しながら看護師より説明し、意向を確認している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別の急変時の対応については、朝のミーティングや全体会議の場で指導を受けている。 緊急時の対応マニュアルがすぐに見れる場所にあり、入職時にはバイタル測定や心肺蘇生法の講習を受けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導による避難訓練を年2回行っている。夜間の訓練時には近隣の方の参加を呼びかけ、顔と郵送方法が解るように情報を書いたプレートを掲示している。緊急連絡網には地区代表の方も登録させて頂いている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の目線より下の位置で敬語で会話したり、失礼のない態度で接する事で対応している。必要に応じその方にあった声掛けの仕方をミーティングや全体会議の場で話し合っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出先を決める際、雑誌やパンフレットを見せ選んで頂いたり、自己決定しやすいよう選択できるような質問で働きかけ本人の思いを表せるよう支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の際、本人が希望されれば時間をずらし提供したり、レクリエーションや入浴等の声掛けを行い本人の思志を聞き希望にそって支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら化粧をしたり顔剃りの要望があれば訪問美容室に依頼している。衣類購入の際は一緒に出かけ選んで頂くことでおしゃれの支援をしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な物があれば味つけや食材を変え一人ひとりの好みに合わせたり、飲酒を希望される利用者には提供し食事を楽しめるように支援している。食事の準備や後片付けは利用者と一緒にやっている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養バランスのとれた食事になるよう栄養士がチェックしており、献立によってはキザミ食等必要に応じて提供している。食事量や水分量は一人ひとり確認し記録している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けが必要な利用者様や夕食後に確認し必要に応じ介助を行う利用者様など一人ひとりに合った口腔ケアを支援している。義歯洗浄剤を定期的に使用し清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック記録にて排泄パターンの把握を行い、一人ひとりにあったパットを検討し使用している。定期的な声掛け、誘導を行う等紙パンツやパットの使用料を減らし自立に向けた支援を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維を多く取り入れたり、牛乳や腹部マッサージにて自然排便を促している。看護師よりミーティングや全体会議の場で便秘の原因や予防等の指導があり勉強する機会がある。便秘時の対応の仕方も学んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	毎日入浴可能であり、一人ひとりに合わせた入浴時間、温度調節や入浴剤を使用している。浴室の窓からは庭を眺めることが出来、木々を楽しめる環境にある。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明・室温や衣類の調整に気を配り自宅より使い慣れた寝具類を持参して頂き使用することで安眠を確保している。寝具類は定期的に洗濯し天日干しすることで清潔を保ち気持ちよく眠れるように支援している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の効能・効果や注意事項等が記載された用紙を個人記録に綴っており、いつでも確認でき把握している。内服の変更や副作用等は看護師より説明、申し送りにて確実に伝達できている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前より魚釣りをされていた利用者には、スタッフと一緒に魚釣りに出かけ釣った魚を魚拓にして居室に飾ったり、お酒を好まれる利用者には外食や食事時飲酒の機会を提供し楽しみの支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	親類の葬儀参列の付き添いや、外食の際、ご家族に声をかけ一緒に出かけたりと協力し支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者は、ご家族了承のもと自分で所持されており、買物や外食の際本人で支払いされお金を使えるよう支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族や友人と電話で話す機会を提供したり、手紙のやり取りを行う事が出来るよう支援している。又、文章を書くことが不得意な利用者でも職員が日頃の様子を書き利用者へ一言、二言書いて頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の温度・湿度を定期的にチェックし管理している。玄関や中庭には季節の花、ホールには季節に応じた装飾を行い季節を感じられるようにしている。日めくりカレンダーを置くことで日にちの混乱をなくす様配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファ、中庭にはテーブルや椅子を置き日光浴もかねて利用者同士が自由に談話できるようにしている。又、一人がけのソファもあり独りになることができる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談の上、馴染みのある家具等を持参していただいたり、好みに応じた装飾や家族の写真を飾ることで居心地の良い居室作りを行っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで段差がなく、手すりやスロープが設置されている。居室前には名札や写真を飾ることで自分の部屋が分かりやすいよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
			○	③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）		①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
			○	③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
			○	②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない